

1961



TRG 日本放送作家協会

# 第一回日本放送作家協会賞



ごあいさつ

会長 久保田 万太郎

山野に若葉、風薫る佳き季になりました。

本日、ここに諸氏の御賛同を得、盛大に、昭和三十六年度「日本放送作家協会賞」に関する式典を行い得ますことは、誠にわれ／＼の喜び、且つ感謝に耐えないところであります。

顧みますれば、本協会設立以来凡そ二年、会員及び放送関係各位の御理解ある御支援のもとに発展を続けて参りましたが、昨年末「放送作家である私たちの感謝の意をこめて……」という意図のもとに「協会賞」を設定致しました。

三次にわたる投票、委員会の検討など、会員四百七十二名の総意により選衡させて頂きました。その結果、勿論他にも大勢、賞をさし上げたい方はおりましたが、とにかく私共放送作家の感謝の意として、ささやかではありますが、賞をさし上げたいと思えます。

願わくば、会員諸氏は勿論、受賞者の皆様、放送関係各位が、共に手をたづさえて、明日の放送文化の為に、益々、御努力下さいますことをお願い申し上げますと共に、本協会発展の為に、ますます御支援を給わりますよう御願ひ致し、御挨拶にかえるしだいでございます。

## 受賞される方がた

### 企画賞

「日本の素顔(NHK)」の企画に対して

### 演出者賞

せんぼんよしこさん

(NTV「愛の劇場」担当)

### 男性演技者賞

松村 達雄 氏

### 女性演技者賞

黒柳 徹子さん

### スポンサー賞

東京芝浦電気株式会社  
東芝商事株式会社

### T R G 賞

和田 勉 氏 (NHK大阪)  
「放送理論とその実践」に対して」

### サンキュー賞

- (1) 株式会社文化放送本社総務局庶務部  
(本社受付窓口係全員)
- (2) 館野(旧姓高木)淑子さん  
(元東京放送ラジオ受付係)

# 協会賞設定から 受賞者のきまるまで

理事長

内村直也

(協会賞実行委員長)

日本放送作家協会が誕生して一年半、「日本放送作家協会賞」設置は、設立当時から懸案の一つとなっていました。昨三十五年十月八日の常任理事会に提案されました。「協会として他にやらなければならない事がありはしないか?」「時期尚早である」などの反対意見も述べられまして、種々の討論の結果、一応この問題に就いては、運営委員会に委かせ全会員に対して、アンケートにより賛否を問うことになりました。ただちに運営委に依りそれが実行され、その結果絶対多数の「賛成」となり、こゝに「協会賞設定」はいよいよ本決りとなりました。そこで運営委員会の付託を解き「協会賞実行委員会」「内村直也」委員長伊馬春部、市川三郎、玉川一郎、キノトール、永六輔、立美純、田井洋子、宮田達男、北条誠、並河亮、堀江史朗、しのぎき凡、佐々木恵美子、寺島アキ子、神吉拓郎、木村重夫、霜川遠志、菜川作太郎、金井敬三、大倉左兎、吉田みき、山口光子、青島幸男の二十四氏を設けその実際的な活動を行うことになりました。



なものにする建前から慎重を期さねばならぬ、又三十五年度のラジオ並びにテレビの仕事を通じて優秀なる技能を示し、且つ放送作家の感謝の対象となる人たちに与えられるもので、これによつて今後の放送文化向上に積極的に役立てたいという意向が示されました。その際贈呈の対象となる部

門は(1)企画、制作(2)演出(3)タレント(4)新人(5)スポンサーの五部門のほかに「特別賞」として「蔭の功労者」を表彰したいとの意見が出され、その選出方法としては全会員に依る三次にわたる投票とすることと決められました。

第一次投票十一月三十日、第二次投票三月十六日、第三次投票二月二十日、五月と三回にわたり推薦並びに選抜投票が行なわれた。

## 企画賞

### NHK「日本の素顔」スタツフ



「日本の素顔」の放送が始まつてからもう三年あまり、放送回数も百六十回を数えている。その間番組の企画構成撮影編集と、この番組に直接関係したスタッフの数を、延べ人員にするとおそらく百数十人にのぼるのである。

今日、表彰の栄に浴したこの番組を育て上げて来たのはこれらスタッフと更に無数の「素顔愛好者」と云われる固定視聴層の方々だつたと云えるかも知れない。

放送の都度、感じるある「手ごたえ」具体的な形をとつて現われるさまざまな投書、批評、そして番組に対する評価——これらが我々を常に力づけて来たとも云える。

百六十回を通じての最大の手ごたえとも云える今回の表彰を受けスタッフ一同「一層「手ごたえのあるものを」と心に期している。

昭和三十一年十一月、録音構成のテレビ版を——とのネライからスタート、三年以上続き五月六日で百六十四回目を迎える。

日本の社会のさまざまの問題を取り上げ、新鮮なカメラアイで描き出している。

35年度の主な作品  
火山灰地に生きて 行動の世代 九年間の歩み—安保から安保まで— 或る底辺! 大阪のカサブ—西成— いのちの値段 先生の雑記帳 小児マヒ地帯 政治テロ 開拓者—荒野の中の十五年— 同境の島・対島大阪男 土地飢饉

### 「日本の素顔」を推す

並河亮

単なる探訪ものでもなく、また暴露的なドキュメンタリーでもない。現実の裏にある史実的なものと社会的なもの、即ち日本の流れと横の広がりの中で、現実を適確に無慈悲にとらえながら分析、綜合、思索、主張といった教養的思想的なものを打ち出す。そういう点でこの企画は報道教養番組として、恐らく最高のものではないかと私たちは思っている。

テレビの映像は、ものを考えさせないものである。テレビのもつ大きい危険性はそこにある。しかし企画者の良識と人間的教養と熱意が、制作者たちの同様なすぐれた資性と一体となつて映像が作成され、配列されるならば、テレビの映像もこのような思想性を打ち出し得るものだという事実を示してくれている点で、誠に意義があると思う。

が、欲をいえばもう少し専門的に追及できないものか。「大衆」というあやふやなものを忘れて、生きた社会人、知識人の求めているものを大胆に与えてほしい。そして「日本の素顔」の現実面視から肯定と自信の上にたつ「かくあつて欲しい日本民族」への性格改造のヒントを提示してほしいものである。

なされ、左記のような候補対象が挙げられました。

## 企画賞 (敬称略・順不同)

- NHK社会教育部「日本の素顔」
- 田中亮吉「傷痕」
- 酒井秀郎「雑草の歌」電通
- 大坪都築「画廊にて」QR
- 横田雄作「女舞」「女坂」「女面」ABC
- 近藤良太「オタスの森」NHK
- 岡田太郎「日々」CX TV
- 伴秀夫「テレビスコープ」NTV
- 岡山泰「この大なる祈り」CBC

## 演出賞

- 佐藤年「この大なる祈り」CBC
- 宮武昭夫「馳け出せミツキ」TBS
- せんぼんよしこ「愛の劇場」NTV
- 横田雄作「女舞」「女坂」「女面」ABC
- 梅本重信「サンドストーン」NHK・AK
- 鈴木正三「朝の口笛」NHK
- 河野和平「人生うらおもて」NTV
- 和田勉「自由への証言」NHK・BK
- 井原高忠「光子の窓」NTV
- 岡本愛彦「サンヨーテレビ劇場」TBS
- 山田智也「執行前十分」ABC
- 石川甫「黒い断層」「Q」TBS
- 三富孝「夜光蟲」電通
- 大坪都築「画廊にて」QR
- 阿部正義「穴」ABC
- 市川崑「足にさわった女」NTV
- 香西久「その犯人は判らない」NHK

## タレント賞

- 黒柳徹子 友竹 正則 宇野 重吉
- 南原 宏治 若山セツ子 多々良 純
- 藤山 寛美 C.T.ツライト 賀原 夏子
- 奈良岡朋子 織田 政雄 園井 啓介
- 柳 永二郎 仲谷 昇 森 雅之
- フランキー堺 松村 達雄 藤田まこと
- 草笛 光子 北村 和夫 伊藤雄之介
- 水島 弘 柳川 清

## 新人賞 (演出部門)

- 阿部 正義 堀川 浩二 大山 勝美
- 山本 和夫 大熊 邦也 久野 浩平

- 山田 勝美 瓦林 睦生 山本 一次
- 堀 泰男 千野 栄彦

## 新人賞 (タレント部門)

- 若山 弥蔵 ジェリー藤尾 市原 悦子
- 芳村 真理 入川 保則 五十嵐新次郎
- 伊藤 孝雄 川口 敦子 渥美 清
- 河村 有紀 ハナ肇とクレナツキヤッツ 三島 由美
- 旗 和子 クレナツキヤッツ 高田 敏江
- 夏川かほる 村中よしえ 京塚 昌子
- 丹羽たかね

## スポンサー賞

- 東芝商事 資生堂 寿 屋
- 三共製菓 三洋電機 エーザイ
- 花王石鹼 旭 硝子 日魯魚業

## 特別賞

- 島アウンサー フジテレビ交換嬢
- 文化放送 受付 NHK 図書室
- 博報堂ラジオ制作課 NHK 交換室
- 東京放送ラジオ受付 館野淑子
- 上方落語オハヤシ 林屋トミ
- 東京放送ラジオサービス部

前述の各作品、各候補者について受賞者決定のため六回実行委員会が三月十七日に開催されました。その際部門別事項についても多少の変更をいたしました。新人賞はタレント賞と合併し、男女各一名にしほり、名称を「演技者賞」と変更する。また新人賞演出部門は、これを「演出者賞」に含める。更に「特別賞」はその名称を「サンキニ賞」と改め、直接制作現業に従事しない人たちに對して贈る。全体的にみて放送界に特に顕著な功績のある人に対しTRG賞を新たに設ける。以上のような変更決定がなされた後、出席委員全員によつて記名最終投票が行われ才一回日本放送作家協会賞受賞者が正式に決定されたのであります。

## 演出者賞 せんぼんよしこさん

「愛の劇場」は私の恋人です。キザといわれましようが本当のこと、寝ては夢、さめてはうつら、愛の劇場のことを思いつめてこの一年半を過ぎて参りました。悪女の深情の感なきにしもあらずですが、もう致し方ありません。今度私は、放送作家協会の演出者賞をいただくのだそうですが正直申して私には重荷です。まだ、私には賞に値する何物もないことを承知して居ります。けれど、それが「愛の劇場」の一年間の演出に對するこぼりびとかがつて少しはつと致しました。恋人と一緒に勇気が出ます。いただきます。どうぞこれからも厳しい御批判をお願い致します。

せんぼんよしこ

## 和田勉氏

私にとつてこの賞は、もつとも嬉しいものでした。という、大変ステロタイプ化した物の云いようで満足してはいたくないこと、存じますが、いさ、か受難難詰いた私への賞の理由が、充分私の感性と論理に訴えたのです。理論と実践は、私のもつとも愛好するところですが、とはいえ、私にとつてこの賞は、敵からもほめられた、という一面があるようです。だから変な云い方ですが、私はどつちにしても、その頃の領土の広大さにつく、感心して居りますという意味でこの賞は、私にとつていちばん手

せんぼんよしこ(千本福子)さんは大連に生れ、早大才一文学部演劇科を昭和二十八年に卒業、同年に日本テレビ放送網の発足と共に入社したNTV生え抜きの演出者。「愛の劇場」才一回(34・10・1)放送以来一年半担当を続け、その演出には定評がある。

★35年度主な演出作品  
愛する作・水木洋子 寂しい人作・池田一朗

## お祝いの言葉

東郷 静男

この慶千本よしこさんが協会賞を受けられたことは、誠にお目出度く思い、心からお祝いを申し上げます。放送の仕事は、表に現われない色々な苦労があり、雑務があり、純粋な意味での演出の仕事はその負担のごく一部であることは、あまり多くの人々は知らない。

演出といえ、大変に派手なように聞えるけれども、実際には、この仕事ほど精神的にも肉体的にも疲れるものはないと思われ、実にでしこくにかげん、だから、これを得ないのことは、私達この道にたずさわっている者が、ひとしく感動をもつて認めているところであり、それが曲者につくものですが、千本さんの仕事を発見しているという点は少しもなく、いつも新鮮な感覚と技術をもってTV演出をされている努力は大いに買われていいと思います。協会が、この方に対して賞を贈ることは誠に時機を得たことであり、意義ある企てだと思います。千本よしこさんの今後のお仕事を期待し益々その道に精進されることをお祈りし、お祝いの言葉と致します。





サンキユー賞 文化放送受付のみなさん

このたび日本放送作家協会から「サンキユー賞」をいただくことになりましたが、あまり意外なことで、私共一同喜びで胸一杯でございます。と申しますのは、受付という仕事がこのようなおほめをいただくことは今までに聞いたことがないからです。私共の職場には放送に直接御関係の作家の方々は勿論、御出演の方々は政界、財界、学界、そして芸能界の方々等大変範囲が広く、その上商業放送局ですから、スポンサー、代理店の方々が毎日お見えになります。これらの方々は皆大切なお客様ですから、気苦労が多いのですが、皆様に失礼のないよう心がけております。私共は全員九名で二ヶ所の受付とエレベーターを受持つておりますが、みんな職場に満足して楽しんでおります。

主任 栗原雪子

文化放送  
アツタカイ受付

永 六 輔

- (写真 右から)
- 田村時江
  - 村上洋子
  - 村留敦子
  - 福留美智子
  - 佐藤雪子
  - 栗原雅子
  - 関根雅子
  - 山本祥子
  - 渡辺百合子
  - 及川勝子

文化放送という放送局は受付に限らず家族的である。

四谷二丁目の横町を曲ると正面に文化放送のビルが見え、遠くからでも素通しのガラス戸を通して受付がのぞける。

従つてドアを押す前から今日は誰が受付にいるかわかるし、顔なじみだと手を振りたくなる心境になる。

でも心境になるだけで実際に手を振っちゃあおかしから、すまして文関前まで到着する。だからやつとドアを押して中に入るとホッとす。

こんな気分になるのも迎え方がアツタカイからだ。栗原さんのアツタカイ感じが若い人達にもあるということは、若い仲間としてトツテモ嬉しくなつてしまう。



サンキユー賞

館野淑子さん

- 明治43年 東京に生る
- 昭和2年 三輪田高女卒
- 同 22年 セント・ポールクラブ入社
- 同 25年 森永製菓株式会社入社
- 同 27年 ラジオ東京入社
- 同 36年 結婚の為東京放送を退社(旧姓高木淑子)
- 尚夫君館野善二氏は東京放送ラジオ編成局、邦楽課のプロデューサーである。

ありがとさん

伊馬 春部

日ごろわれわれ放送作家がお世話になつてい「カゲの力」の方々に感謝「サンキユー」の意をこめたものを貰つていたかどうかということになつたとき、衆口一致まずあがつたのが東京放送受付の館野淑子さんであつた。

旧姓高木のこの女史はその至れり尽せりの親切と柔和きわまる物腰とでKR開設以来の評判の方で、だれしもこんにちの誉れを領かないものはないほどなのだが、ある週刊誌に語つておられたその感想に、私はさらに脱帽した。

「文化放送さんは、受付全員が選ばれたのにウチ(TBS)では私だけ。私の指導が行きとどかなかつたと思うと申しわけなくて…」

どういたしまして！東京放送さんも文化放送さんと、その受付技術(ムードを含む)に於いて、今後大いにしのぎをけずつて下さい。